

トドマツミキモグリガ

トドマツの幹や枝から虫糞の混じったヤニがでる。その部分の樹皮内にイモムシ（幼虫）や蛹がみられる。幼虫は秋から早春に発生する。最大長約8mm。茶色から灰色。蛹や蛹殻は春にみられ、長さ5mmほどで茶色。

ときどき多発し、枝を枯らすことがある。



1. トドマツ被害枝。1999/11/22。深川市。

【学名】 *Cydia pactolana yasudai*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道。

【生態】

宿主：トドマツやヨーロッパトウヒの樹皮。

樹皮内で幼虫で越冬する。5月中旬頃に樹皮内で白い繭を作って蛹になる。成虫は5月下旬～6月中旬に羽化する。幼虫は樹皮内に潜り、夏から秋にかけて内樹皮を食べて成長する。

【被害と防除】

以前は生垣などのトドマツ幼齢木に多発することがあるといわれていた。最近は造林地の若齢林から荘齢林でときどき局所的に多発が観察されている。食害により枝が枯れることがある。

街路樹などでは秋から冬にヤニや虫糞のみられる部分を削って中の幼虫を除去する。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場研究報告, 22: 85-129. (形態, 生態)

トドマツミキモグリガ himehama/todomiki/

kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/13.

higai.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1999.